

俳句

駒駆け那須野が原や雲の峰
百合の香にまみれリフトを降りにけり
船べりに魚寄りくる船下り
街極暑しかめつ面の鬼瓦
耀歌の山まぶし梅雨雲むくと脱ぎ
連結の赤き貨車過ぐ極暑かな

馬頭 藤田 芳輝
松野 大高 富美
小川 鈴木 君枝
小川 小川のぶ子
谷川 和泉すみを
田川 荒井 大作

短歌

南海の島々駆けて日食のダイヤモンドリングにはしゃぐ子どもら
幾度も灰汁を流して小豆煮るひたひた盆の近づき来れば
夏木立茂れる沢の野仏にとどかぬ願ひと知りつつ祈る

馬頭 五月女トミノ
馬頭 西宮 定子
和見 小高 歌子

古手紙古き文書を焚く焔包む宵闇いつしか涼し
高莖の頂に咲き向日葵の得しとて空へ黄色発散す
妻の背の丸味の目立つ昼下りお茶を入れたり肩を揉んだり

小川 古澤 實
小川 郡司 喜恵
小川 佐藤佳久子

先月号の短歌に脱字がありました。正しくは次のとおりです。
謹んでお詫びの上、訂正いたします。

初生りの南瓜を挽げば切り口に吸い上げし水滴り匂う

盛泉 岡 イチ工

川柳

ほっとしたとたんに次の悩みごと
言いたげな遺影手向ける鎮魂歌
主張する権利の裏にある責務
最後には祈ることしかない患者
今のエゴ昔やってた事ばかり
支え合う苦労夫婦にある絆

谷田 岡崎 甫子
薬利 大崎 克明
大内 郡司 正幸
小川 平澤 照雄
谷田 岡崎 友子
小砂 笹沼 季子



新着図書

那珂川町 図書館

『文化祭オクロック』



竹内 真／著 (東京創元社)
高校の文化祭当日、突如校内放送から謎の男の声が流れてきた。DJネガボジと名乗るその男は、文化祭を盛り上げるための企画を次々と提案していくが、どこか怪しい。華やかな文化祭の裏で静かに進行する陰謀と謎のDJの目的とは？文化祭当日のエネルギーをたっぷり詰め込んだ、青春ミステリーの決定版。

『ナガサキ消えたもう一つの原爆ドーム』



高瀬 毅／著 (平凡社)
被爆体験を伝える遺構と聞いて、多くの人が、「原爆ドーム」と答えることでしょうか。では、広島と同じく原爆都市である長崎には、何も残らなかったのでしょうか。長崎には、原爆によって破壊された浦上天主堂が残されていますが、戦後十三年目に、多くの反対を受けながらも取り壊されてしまいました。そこにはどんな背景があったのでしょうか。長崎原爆の真実に迫るノンフィクション。

『惣一じいちゃんの知っているかい？農業のいま』



山下惣一／著 (家の光協会)
イチゴは野菜か、それとも果物か？カボチャの名前の由来は？田んぼと畑の違いは？今、それらのことが分からない子どもや、答えることが出来ない親が増えています。しかし、生きるためには「食へ物」が必要です。その「食へ物」を作っている農業について学ぶことは、命のつながりを知ることにもなります。

- ◇ 『悪党』 葉丸 岳／著 (角川書店)
- ◇ 『あの子の考えることは変』 本谷有希子／著 (講談社)
- ◇ 『静子の日常』 井上荒野／著 (中央公論新社)
- ◇ 『線路と川と母のまじわるころ』 小野正嗣／著 (朝日新聞出版)
- ◇ 『ころころ』 島中 恵／著 (新潮社)
- ◇ 『ドント・ストップ・ザ・ダンス』 柴田よしき／著 (実業之日本社)
- ◇ 『武士道エイティーン』 菅田哲也／著 (文芸春秋)
- ◇ 『終の住処』 磯崎憲一郎／著 (新潮社)
- ◇ 『落語論』 堀井憲一郎／著 (講談社)
- ◇ 『かいけつゾロリきょうふのちょうとつきゅつ』 原 ゆたか／著 (ポプラ社)